

彩の国さいたま芸術劇場

SAITAMA ARTS THEATER

所在地／埼玉県与野市上峰3-15-1

建築主／埼玉県

設計者／香山壽夫＋環境造形研究所

施工者／株式会社間組

大成建設株式会社

八生建設株式会社

竣工／1994年3月

Location／Yono City, Saitama Prefecture

Owner／Saitama Prefecture

Architect／Hisao Koyama＋Koyama Atelier

Contractors／Hazama Corporation

Taisei Corporation

Hassei Corporation

Completion Date／Mar. 1994





ロトンド夜景 Night view of the rotunda. / 48-49頁：北側全景 pp.48-49 : General view from the north.

建築概要

敷地面積 18,970.30㎡

建築面積 10,713.81㎡

延床面積 23,855.81㎡

構造 鉄筋コンクリート造および鉄骨鉄筋コンクリート造 一部鉄骨造

規模 地下2階 地上4階 塔屋1階

工期 1991年12月～1994年3月

仕上げ概要

外部仕上げ

屋根/フッ素樹脂鋼板 ϕ 0.4mm葺 アスファルト防水 外壁/磁器質タイル45角 コンクリート化粧打

放し ランデックスコート 開口部/アルミニウム製建具 スチール製建具 ステンレス製建具 外構/豆砂利洗出し平板 ボーダーテラゾーブロック 緑化コンクリートブロック

内部仕上げ

[大ホール] 床/コルクタイル 壁/PB ϕ 9mm+12mm 化粧塩ビシート貼 一部大型タイル 一部焼結アルミ吸音材貼 天井/PB ϕ 9mm+12mm [小ホール] 床/ナラフローリング ヒノキ集成材 ϕ 30mm OS 壁/スチールエキスパンドメタルパネル焼付 塗装 一部コンクリート化粧打放しランデックスコート 天井/PB ϕ 12mm+12mm EP 一部ガラスウ

ール ϕ 50mm ガラスクロス [音楽ホール] 床/コルクタイル 壁/FGボード ϕ 10mm+10mm ヴェネチアアート仕上げ FGボード ϕ 12mm+12mm+珪酸カルシウム板 ϕ 6mm ナラ練付 OSCL トラバーチン ϕ 30mm 天井/FGボード ϕ 8mm+8mm+8mm EP 一部PB ϕ 12mm+岩綿吸音板 ϕ 12mm [ガレリア] 床/網入透明ガラス ϕ 10mm 壁/コンクリート化粧打放し ランデックスコート 細石入アクリル樹脂コテ仕上げ 天井/カラークリート仕上げ ボーダーテラゾーブロック

設備概要

空調 方式/単一ダクト AHU FCU 空冷PAC

空冷ヒートポンプエアコン 熱原/ガス

衛生 給水/加圧給水方式(市水および工業用水)

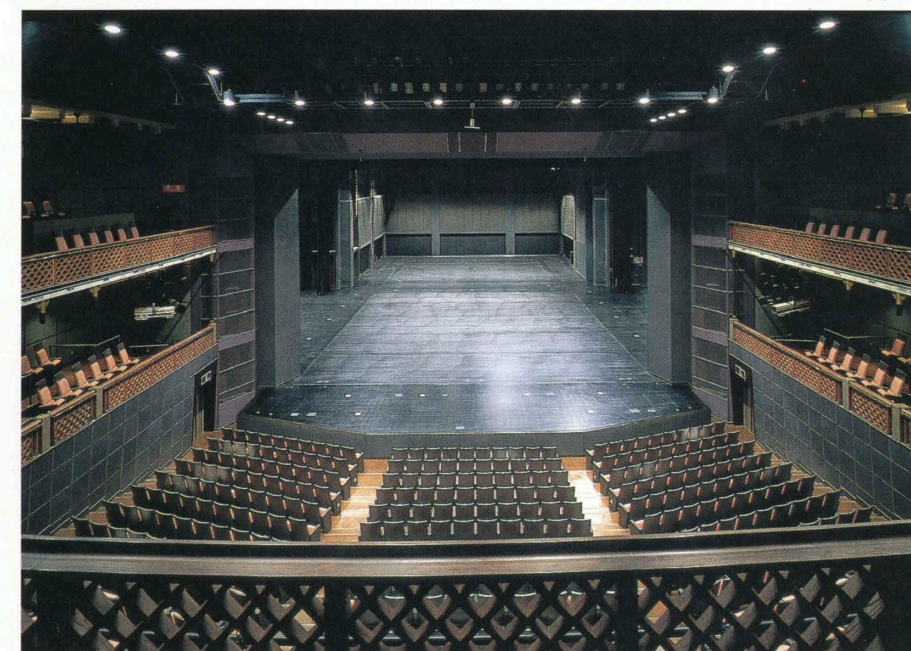
給湯/中央式および局所式 排水/自然流下 一部ポンプアップ式

電気 受電方式/高圧受電3 ϕ 3W6,600V 設備容量/5,280kW 契約電力:1,200kW 予備電源/ディーゼル発電機 3 ϕ 3W6,600W

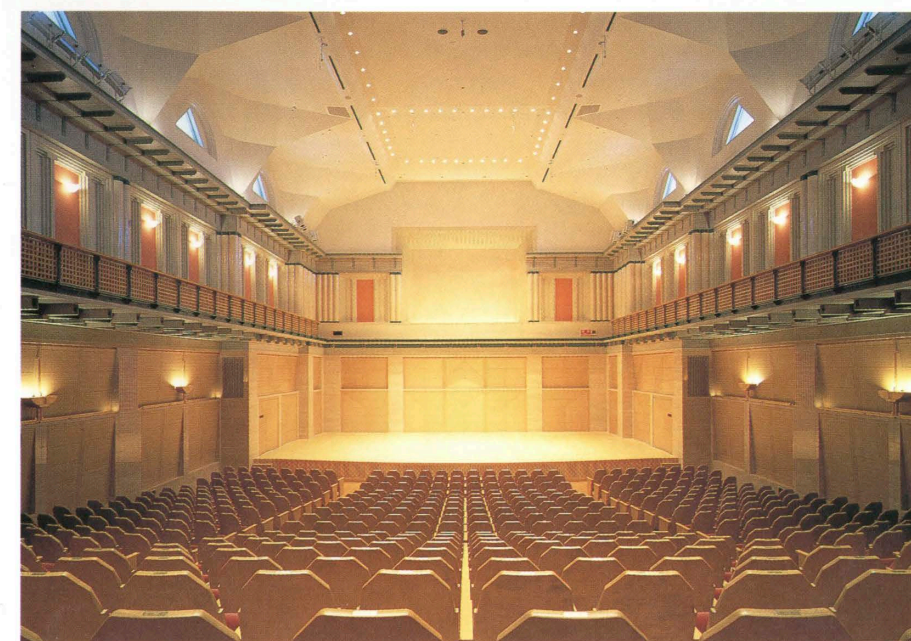
防災 消火/消火器 屋内消火栓 スプリンクラー 泡消火 連結送水 防火水槽 ドレンチャー 排煙/自然排煙 機械排煙



情報プラザ Community plaza.



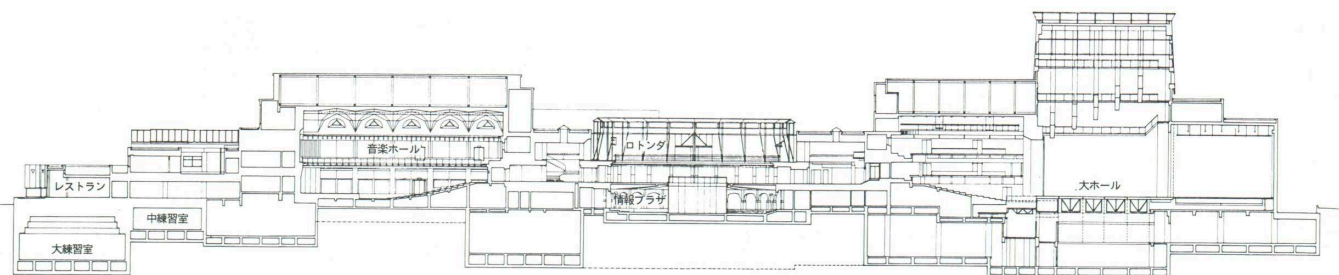
演劇ホール Theater.



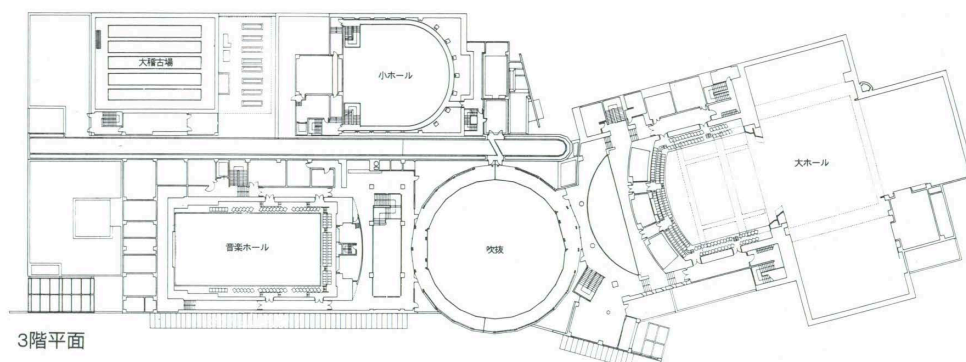
音楽ホール Concert hall.

選評
REVIEW

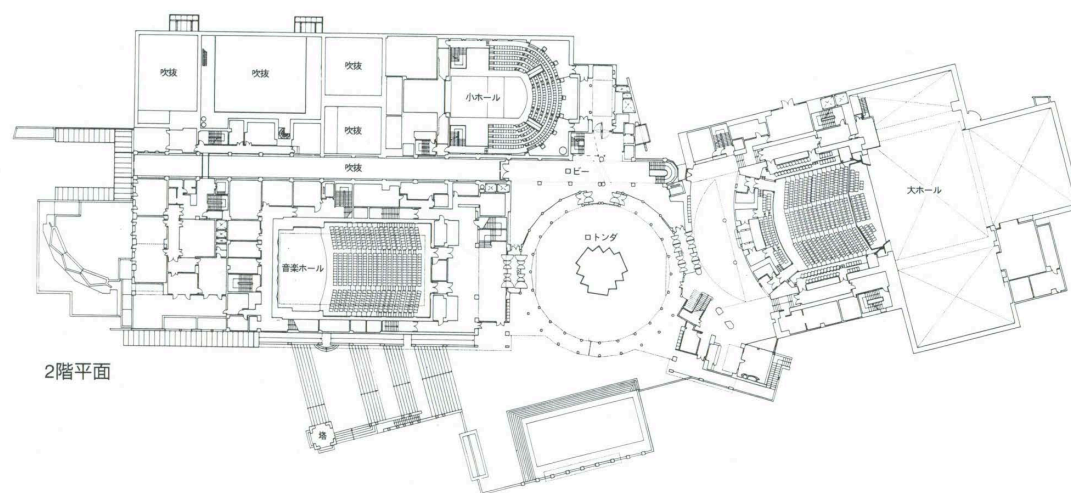
鈴木博之 HIROYUKI SUZUKI
戸尾任宏 TADAHIRO TOH
舟橋 巖 IWAO FUNABASHI



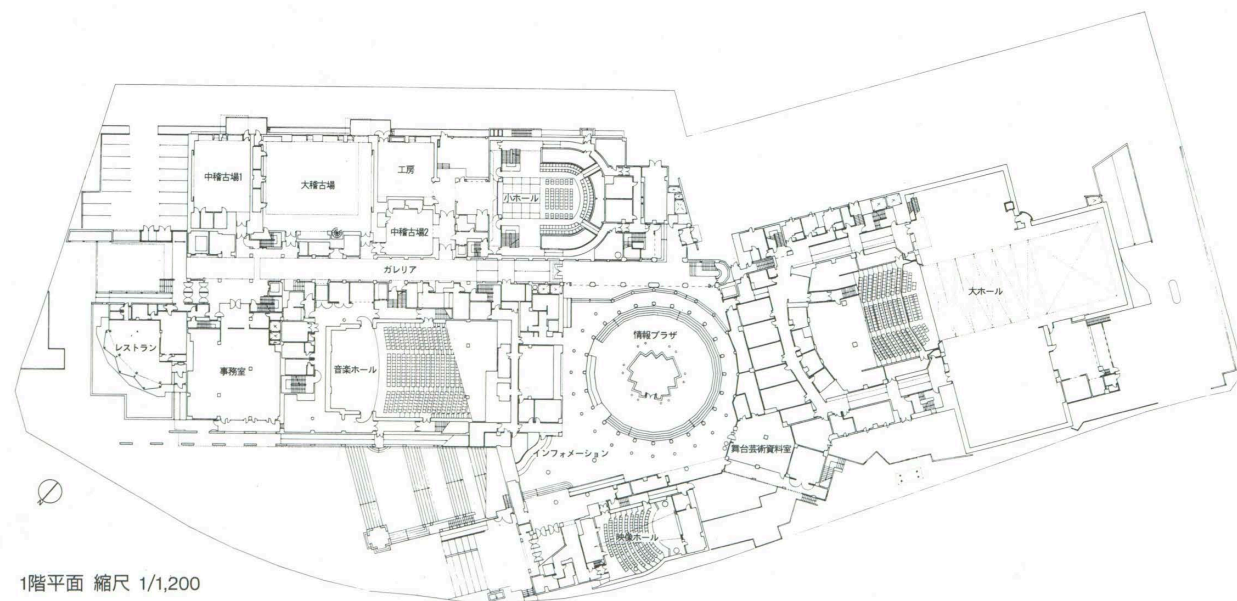
断面 縮尺 1/1,200



3階平面



2階平面



1階平面 縮尺 1/1,200

この施設が立地するのは、埼玉県与野市である。ここは大宮と浦和の中間地点であり、今後、大宮・浦和を一体として広域の都市圏を形成してゆく際の、文化・芸術の拠点となることが計画されている。

この場所に建設された「彩の国さいたま芸術劇場」は、これまでの大型多目的ホールではなく、明確な目的をもった大ホール、映像ホール、音楽ホール、小ホールの四つを、相互に刺激し合うような構成でまとめあげた。さらに、こうしたホールの活動を支え、発展させるための施設として、大小の稽古場を充実させている。これは県の施設として意欲的なプログラムであり、建築はよくその期待に応えている。

まず、大小のホール群をまとめる要素として、円形の広場であるロトンダが設けられ、エントランス部分で、利用者たちがこの劇場全体の活動の雰囲気を感じられるようにしてある。ここはガラスを多用した吹抜けの空間でもあるので、特に利用の多い夜間には、一層雰囲気を盛り上げる。

ホール群と稽古場のつなぎの空間としては、ガラスのトップライトを備えた長大なガレリアとよばれる通路空間が用意されている。ここは、出演者や観客が、ホール全体の大きさと構成を肉体的に実感できる部分である。ともすればホールとホールが、迷路のように連なることになってしまう大型多目的ホールと異なり、このガレリアによって「彩の国さいたま芸術劇場」は、大きいけれども構造の明快な複合施設となった。

それぞれのホールは、個性的な空間にまとめあげられており、はじめて訪れる観客には新鮮であり、繰り返し足を運ぶ観客にとっても飽きのこないものである。音響効果、視覚的構成についても、専門家との協力が密になされ、満足すべき結果を生んでいる。

「彩の国さいたま芸術劇場」のもう一つの特徴は、建築が完成したあとの運営が十分に考えられていることである。ここでも、専門家を多く擁した委員会が多目的な公演プログラムを立案し、実行している。施設だけが存在するのではなく、みごとに運営されている点も、評価の対象であった。

こうした大型施設がつくられる場所として、周囲の環境は成熟した都市的景観をもっているとは言えないが、この劇場はそうした周辺環境の刺激となり、将来の都市景観を誘導するものとなるように、開かれたアプローチをもち、同時に群をなすホールが一種の町並みのような賑わいを示している。そこにシンボルとなる塔が建てられ、遠くからこの「彩の国さいたま芸術劇場」を目指す人々に、ランドマークの役割を果たしている。

全体としてこの施設は、地方自治体の文化行政の新しい姿勢をよく示し、今後の文化の息吹を感じさせるものとなっている。そうした総合性を実現した施設として、これは高く評価される建築である。

The town of Yono, where this new arts theater stands, is located midway between the much larger cities of Omiya and Urawa, which are certain to integrate in the future. The theater will become increasingly prominent in local culture and art as this integration process advances.

Distinct from the vast, multipurpose auditoriums popular in the recent past, the Saitama Arts Theater is composed of 4 functionally individual, mutually stimulating theaters: large auditorium, motion-picture theater, concert hall, and small auditorium plus large and small rehearsal halls. Saitama prefectural authorities set up an ambitious program for the center, and the building satisfies their expectations.

A rotunda binding the 4 theaters together provides guests with a vantage point from which to take in the mood of the activities of the entire center. At night, light flooding from the many glazed openings further enlivens the atmosphere.

A long *galleria* with a glass skylight provides passage space between the theater group and the rehearsal-hall group and enables performers and guests alike to experience the scale of the facility with their own bodies. Unlike many confusingly labyrinthine multipurpose auditoriums, the Saitama Arts Theater, though large, preserves clarity thanks to the *galleria*.

First-time visitors find the overall freshness impressive. Regular guests who have been there time and time again never grow bored with the theaters. This is true because each functional space has its own distinctive personality. Specialist cooperation has ensured satisfactory sight lines and acoustic effects.

Aside from its architectural excellencies, the Saitama Arts Theater is distinguished by a well thought-out operational and management plan. Committees, on which a number of specialist sat, worked out and now implement a diversified performance program.

Because of its openness, the theater group, already the hub of vigorous urban activities, will attract other facilities, thus simulating the further urbanization of its still immature neighborhood. The theater's symbolic landmark tower is visible from afar. As a whole, the Saitama Arts Theater offers a refreshing new model for regional autonomous cultural facilities of the future.